発 達 20 (348~354)

座長 大元 誠・木本尚美

- 348 保育者養成校学生の保育者観に関する研究(1)
東京教育専門学校 安西豪行
- 349 保育者養成校学生に関する調査
広島大学 大元 誠
- 350 保育者のパーソナリティと幼児の運動能力発達に関する一考察
関西保育専門学校 宮本博伊
- 351 幼児の両足跳び運動場面の行動変換における言語の役割
長崎県立女子短期大学 山村小夜子
- 352 発達助成に関する基礎的研究(8)
——健全児と精神薄弱児における運動機能の構造について——
大泉保育専門学校 阿部健一
- 353 保育者の career development (その2)
柳学園保育専門学校 青野省三
- 354 「スポック博士の育児書」における育児観の検討
広島女子大学 木本尚美

質疑応答の概要

348：米谷（関西保専）から「保育者」に対する定義は何かとの質問に対し、教員より異なるが、学校では「保育者」とは、幼稚園教諭、保育所保育士、施設保育士ということになっているとの回答があった。また被験者から男性を除いた理由の質問（木本）には、男性の人数は1年6名2年2名と少人数であったし、傾向として特に著しいものは認められなかったためとの回答があった。

349：木本からの被験者の幼稚園・保育所等の実習の経験の有無についての質問に対し、一部の者が施設実習に行っており、他にも行く予定であるとの回答があった。

350：田中（大分大）から、表1におけるY-G型のAB・AD・Dタイプの保育者の人数は、それぞれ何人ずつか、またそれぞれのタイプにより保育者の人数が異なるが、その人数の多少を考慮せずに単純計算して処理しているのかとの質問に対し、担任保育士をタイプに分類した時、数が異なるので当然それぞれのタイプにおける園児数は異なる。今後の研究において御指摘の点を踏まえた上で進めていきたいとの回答があった。西田（みかづき保育園）からの測定日について、5月と11月では、子どもの動きに温度差等による影響はなかったのか、また体育専門指導者における男女の性別の違いについての

質問に対し、季節により子どもの活動状況には、個人的傾りがある場合もあるが、統計的処理をした場合は、毎月向上があった。一般的には男性担任クラス、体育指導者がいる園は、やはり運動能力がすぐれている。しかし今回の園は、同一指導者がすべてのクラスの子ともかかわっているとの回答があった。

351：大元の認知スタイルとはどのタイプかとの質問に対し、ケーガンの衝動型・熟慮型を用いたとの回答があった。さらに大元から行動変換の、赤→アラレ。とアラレ→赤とは違うのではないかと、赤→赤→アラレをパターンとして、アラレ→赤の前で休止があるのではないかととの質問に対し、パターンごとに休止する被験者がいたし、休止せず遂行する被験者もいたので、赤→アラレ、アラレ→赤への変換に違いがあるか否かは、今のところわからないとの回答があった。また田中（大分大）から、表3の結果をみると、3才半の幼児にとって課題が困難すぎるのではないかと、何回ぐらいのくり返しで基準型になるのかとの質問に対し、両足跳びが可能か否か、このパターンがこの年齢で可能か否かの点については、予備調査により、前者は可能であった。しかしパターンについては、ジグザグでは単純すぎるし、発達的にみるためには多少困難かと思っただが用いてみた。3才半児には、このパターンはむずかしいと思われるとの回答があった。

352：米谷から握力測定に関して、障害の重い子について測定しにくいことはなかったかとの質問に対して、子ども握力計を用い、さほど困難はなかったとの回答があった。また田中（大分大）からの、ダウン症児に、高所不安を示す傾向はみられなかったかとの質問に対して、課題遂行への目的意識が乏しい子、課題へ拒否的態度を示した子については、分析から除外したとの回答があった。さらに大元から、呼吸持続時間と発声持続時間が年長児で関連性がうすくなる事の質問に対して、この測定は今回初めて行ったものなので、今後確認する資料を得たいとの回答があった。

353：大元から発達の正解もしくは理想的解答とは何か、保育士のものを正答とするのかとの質問に対して、どのような応答が望ましいかは難しい問題だが、保育士のキャリアの発達につれてある応答傾向が強まるといことが考えられるとの回答があった。

(大元 誠・木本尚美)